

大崎短歌会

兼題「案山子」

コロナなどどこ吹く風のかかしさん

両手広げて今日も田に立ち 坂元つる子

みの笠にへのへのもへじ案山子像

むかし語りや田にドローン飛ぶ 上南紀子

傾きて休耕田に立つ案山子

訪い来たりなば集く虫の音 山下海征

すすきはら薄暗闇の遠き田の

皆の幸せ祈らむかかし 井元かず子

案山子なる題がそもそも何詠まね

私自身のなりたき案山子 原田葉子

この数年田の畦に立つ案山子見ず

いずれは死語となるやもしれず 穂園芳江

餓鬼の頃案山子めがけて石投げる

へのへのもへじ面に向かいて 実吉安仁

大谷の二本の足の影ながく

トンボ群れ飛ぶ夕の刈田に 本後淑子

猪子田守り同志とかかし語らんや

雨早越へ稲穂傾げん 馬場みさ

薩摩郷句

兼題「大根」

黒デヨカで 大笑いになった 股大根

(唱) 一度と作れん 名品ごわす 北村虎王

俺い呉るち 奥様が股がっ 引つ大根

(唱) 品も所作も無 奥様い驚嘆っ 西ノ園ひらり

ギネス級を 競い合っ作い 桜島大根

(唱) 相当頭を 使った農業くしっ 上村牛歩

安値し 刺身 剣の大根に 反い返えっ

(唱) 良かベツドじゃち 威張った鯛 藤元鬼瓦

藁すぼで 他所行き並るだ 桜島大根

(唱) どいも立派じゃ 料亭行っじゃろ 諸木小春

漬け大根 重石の加減も 器用な嫁

(唱) 良か嫁貰っ 楽しか食事 二見愚楽満

ちりめんと おろし大根で 食欲が出っ

(唱) 肴けい良かが 一杯飲もかい 満石うらら

晩酌ん 刺身のつまに 大根時っ

(唱) 気の長げ話 買ったほが早へが 上窪小絵

妻け負けん 大根が並るだ 青果市場

(唱) 立派過ぎっど 妻も参った 遠矢耐多

大根飴 本まち大根の 味がしっ

(唱) 本まちじゃろかい 試し買っみつ 長重リリ

雨じゃつど 大根の種を 買け走っ

(唱) 段取いの悪い 爺婆ん農業 諸木美舟

